



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員 ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
680号 2017年10月10日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 TEL・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

公共交通の整備促進を

新たなデマンド交通も^{②-下}

第3回定例会一般質問 V

杉森議員は第3回定例会で、公共交通について一般質問した。今号ではその②を掲載する。

コミュニティバス

【杉森議員の質問】コミュニティバスについて、最近5年間の路線数と乗客数、市の支出金の推移について伺います。また、近隣市町村との相互乗り入れの進展と展望についても伺います。



コミュニティバス かつば号

現在7ルート

【経営企画部長の答弁】

次に、コミュニティバスに関してお答えします。

路線数は、5年前の2012年度は5ルート、その後、2013年4月に通勤ライナー2ルートを新設し、現在は7ルートとなっています。

利用者数は、2012年度は189,316人、2016年度は290,670人で、**10万人以上の乗客数の増**となっております。

運行経費は、2012年度は44,465,458円、2016年度は79,354,177円で、市の支出金である**補償金**は、2012年度は27,963,000円、2016年度は**41,841,000円**となっています。



されている「公共交通網の広域連携を図る検討会議」に正式加入し、構成市で情報収集・交換を行っています。

その他、検討中のものとして、奥原町地内での稲敷市コミュニティバスの停留所設置について稲敷市と協議中です。

ひたち野うしくにかつば号

今後の展望としては、2016年6月に策定した牛久市地域公共交通網形成計画の中で、「ひたち野うしく駅周辺での必要性を検証し、導入を検討する。」ことを優先事項と位置付けしており、ひたち野うしく小学校区のタウンミーティングの中でも、かつば号の路線見直しについての意見があがっていることから、ひたち野うしく駅を中心とした**ひたち野地区で新規ルート**を検討することとなります。

デマンド交通

【杉森議員の質問】続いてデマンド交通については、2012年の牛久市地域公共交通総合連携計画によれば、**タクシー**の他に、**過疎地有償運送**（現在の**公共交通空白地有償運送**）、**福祉有償運送**（5団体）、**福祉巡回バス**などがありますが、それらの最近5年間の乗客数と市

近隣市町村と相互乗り入れ

近隣市町村の相互乗り入れは、現在は、つくば市の宝陽台地内にかつば号を運行しており、3か所の停留所が設置されています。

また、本年4月からつくば市他4市で構成

からの補助金の推移をお示しください。またそれぞれに抱えている困難性、例えば運転手の確保など、今後の展望についても説明を求めます。

公共交通空白地有償運送

【経営企画部

長の答弁】デマンド交通に関してお答えします。

最初に、公共交通空白地有償運



送について、これはNPO法人サンライズが公共交通空白地の指定を受けた奥野地区の住民を移送するために国土交通省に登録の上、実施しているサービスです。利用者数は2012年度1,003件、2016年度2,069件となっています。このサービスは、公共交通の色合いが強いことから、市で補助をしており、補助金額は2012年度300万円、平成2016年度373万円となっています。

運営経費は、車両購入費も含めて、2012年度約348万円、2016年度約572万円です。

福祉有償運送

次に福祉有償運送について、これは要介護者や身体障がい者(介護保険の要支援以上に認定され



た方や障がい者)を移送するサービスで、現在牛久市では、牛久市社会福祉協議会、NPO法人サンライズ、NPO法人らくらくなど**6つの団体**が有償運送の例外許可として、国土交通省に登録して行っています。このサービスに関しては、希望する団体が国土交通省に登録を行って自主的に実施する事業ですので、市の補助金はありません。このため、各団体の事業経費・利用者数は把握していません。

福祉巡回バス

最後に福祉巡回バスについて、利用者数は2012年度は6,252人、2016年度は10,675人。

運営経費は、決算ベースで人件費と車両管理費を合わせて、2012年度は約598万円、2016年度は約633万円となっています。

運転手の報酬や問題点についてですが、福祉有償運送については実施を希望する団体の自主事業ですので、各団体の報酬などについては把握していません。

公共交通空白地有償運送に関しては、実施団体から運転手の報酬は一運行当り850円と聞いています。一運行当り報酬であるため、**常時勤務運転手の確保が難しい**ため、時給払いとできるように要望書が提出されており、現在要望内容を精査中です。

新たなデマンド交通

【杉森議員の質問】現在の交通体系を考えた場合、路線バスとコミュニティバス、そして現在のデマンド交通などの微調整で解決できない問題があり、新たなデマンド交通の構想が必要ではないかと考えますが、市執行部の見解をうかがいます。

【経営企画部長の答弁】新たなデマンド交通についてですが、2016年6月に策定した牛久市地域公共交通ネットワーク形成計画で、牛久市の公共交通ネットワークの将来像として、市街化区域のバス路線を配置するエリア、郊外団地のバス路線を配置するエリア、公共交通空白地有償運送によるデマンド型公共交通の実施エリア、それら以外の市街化区域や郊外団地の外側の地域をデマンド型公共交通を推進するエリアとして、区域分けしています。

ご質問の市のデマンド交通とは、市街化区域や郊外団地の外側の地域で実施を推進していくデマンド型の移送サービスの内の、タクシーなどを活用した移送サービスで、**市がククシー会社に委託して行う乗合型タクシーのサービスです。市としても議員のご指摘のとおり、その必要性を感じています。**

しかしながら、他自治体の事例では非常にコストがかかることから、本年度も一団体が事業実施検討中ですが、ボランティア移送サービスの担い手の検討を全市的に行い、経費の節約に努めた後に、サービス開始を検討したいと考えています。